2026 年度　全国学力学習状況調査　結果分析

【国語】

本校の概要	課題	改善の方向
＜内容＞ □「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。	■単語の類別について理解することや文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うこと。	○ 毎授業で実施している漢字テストを継続するとともに、漢字や語句の用法について指導する機会を増やす。
□「情報の扱い方に関する事項」 ・全国平均を下回っている。	■情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。	○ 説明的文章の学習において、根拠となる情報の収集方法や、説得力のある主張につながる情報について考える活動を充実させる。
□「話すこと・聞くこと」 ・全国平均を下回っている。	■必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることや互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。	○ 相手の発言を正確に捉え、質問や意見交流を通して考えを深めるとともに、話し合いの目的に応じて意見を整理する力を育成する。
□「書くこと」 ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。 □「読むこと」 ・全国平均を上回っている。	■段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫すること。	○ 文章全体の構成や段落相互の関係を意識させ、目的や意図に応じて、論理的で分かりやすい文章を書く力を育成する。

2026 年度　全国学力学習状況調査　結果分析

【数学】

本校の概要	課題	改善の方向
＜領域＞		
□「数と式」 ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。	■同類項の意味を理解することや統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明すること。	○ 計算過程を振り返り、文字式の計算のきまりを確認するとともに、条件を変えて考察の範囲を広げる学習活動を充実させる。
□「図形」 ・全国平均を下回っている。	■筋道を立てて考え、証明することや具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすこと。	○ 根拠を明確にした上で、自分の考えを数学的な表現や言葉を用いて説明する活動を充実させる。
□「関数」 ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。	■与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること。	○ 表・式・グラフを関連付けながら、数量の関係や変化の特徴を考察する学習活動を充実させる。
□「データの活用」 ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。	■データの傾向を的確に捉え、判断の理由について根拠を基に説明する。	○ データを収集・整理し、複数の視点から分析した結果を基に、自分の考えを説明する活動を充実させる。

2026 年度　全国学力学習状況調査　結果分析

【英語】

課題	改善の方向
■日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること。	○目的や場面、状況等を明確にした上で、複数の情報を含む英文を読み、自分にとって必要な情報を判断して読み取る学習活動を充実させる。また、読み取った情報を基に、目的に応じて情報を選択したり、他者と共有したりする言語活動の充実。
■日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと。	○身近な話題について、自分の考えや気持ち、その理由や具体例などを整理し、文章の構成やつながりを意識しながら、まとまりのある英文を書く学習活動の充実。また、書いた文章を互いに読み合い、内容や表現を見直す活動を通して、自分の考えをより分かりやすく伝える力を育成する指導の充実。
■音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。	○語彙や文法などの知識を個別に習得するだけでなく、目的や場面、状況等に応じて英文の内容を読み取る言語活動の充実。また、既習の語彙や表現、文法事項を繰り返し活用しながら、文脈の中でそれらの意味や働きを理解し、英文の概要や要点を捉える力を育成する指導の充実。

2026 年度 全国学力・学習状況調査 生徒質問調査の結果分析＜元町中学校＞

全国（公立）の平均と比較したところ、本校では、ICT の活用に関する自己評価や、家庭・教師との関わり、日常生活における幸福感について、全国平均を上回る項目が見られました。

一方で、他者を助ける行動や、異なる意見を受け止めること、学級内での話合いや合意形成に関する項目では、全国平均を下回る結果となりました。

1 本校のよさとして見られたこと

全国（公立）平均を上回った主な項目は、次のとおりです。

項目	本校	全国	全国との差
ICT を用いた情報収集への自信	71.8%	64.2%	+7.6pt
ICT を用いた発表スライド作成への自信	53.6%	46.4%	+7.2pt
家族と学校の勉強について話す頻度（ほぼ毎日）	35.5%	29.3%	+6.2pt
先生に自分のよさを認めてもらえている実感	52.7%	46.7%	+6.0pt
日常生活における幸福感（よくある）	51.8%	46.1%	+5.7pt

これらの結果から、本校では、ICT を活用して情報を集めたり、発表資料を作成したりすることに自信をもっている生徒が比較的多いことが分かります。

また、家庭で学校の勉強について話す機会や、先生に自分のよさを認めてもらえていると感じる生徒の割合も全国平均を上回っています。家庭や学校での人との関わりの中で、自分の努力やよさを受け止めてもらえる機会が多くあることも、本校の特徴の一つと考えられます。

さらに、日常生活に幸福感を感じている生徒の割合も全国平均を上回っており、日々の生活を肯定的に捉えている生徒が比較的多いことがうかがえます。

2 今後、力を入れていきたいこと

一方、全国（公立）平均を下回った主な項目は、次のとおりです。

項目	本校	全国	全国との差
困っている人を進んで助ける姿勢	26.4%	40.8%	−14.4pt
自分と違う意見を言っても否定されない安心感	20.9%	34.2%	−13.3pt
学級活動での話合いによる合意形成	24.5%	34.2%	−9.7pt
いじめはどんな理由があってもいけないという認識	68.2%	76.3%	−8.1pt
自分と違う意見について考える楽しさ	25.5%	32.0%	−6.5pt

これらの結果から、他者との関わりや、異なる意見を受け止めながら集団として考えを深めることについて、今後さらに力を入れていく必要があると考えています。

特に、困っている人に自分から声を掛けたり、手を差し伸べたりすることや、自分と異なる意見であっても安心して表現できる学級づくりは、大切にしていきたい課題です。

また、学級活動などで話し合う際には、単に意見を出し合うだけでなく、互いの考えのよさを認め、異なる意見を比較・検討しながら、よりよい解決方法を見いだす経験を増やしていくことが大切です。

さらに、いじめについては、どのような理由があっても許されないという意識を育てるとともに、相手の立場や気持ちを考え、自分にできる行動について具体的に考える機会を充実させていきます。

3　今後の教育活動に向けて

　今回の結果から、本校では、ICT を活用した学習や、家庭・教師との関わり、日常生活における幸福感について、全国平均と比較して肯定的な傾向が見られました。

　一方で、他者を思いやって行動することや、自分と異なる考えを受け止めること、話合いを通して集団としてよりよい考えをつくることについては、課題が見られました。

　今後も、生徒一人一人のよさや努力を認める関わりを大切にするとともに、授業や学級活動において、互いの考えを伝え合い、多様な意見に触れる機会を充実させていきます。

　また、異なる意見を安心して表現できる環境を整え、互いの考えのよさを生かしながら、よりよい解決方法を見いだしたり、合意形成を図ったりする経験を積み重ねていきます。

　こうした日々の教育活動を通して、他者を思いやり、自分も相手も大切にしながら、よりよい集団や社会をつくろうとする生徒の育成を目指していきます。